

肩をもち合い、楽しみながら腕や肩の運動です。他にも村内を写したスライドショーを見たり、歌に声を合わせたり、心とむむひとときでした



普段から村内と避難先とで訪問活動を行う生活相談員（写真右）。会話をしながら、参加者の健康状態や日常生活のようすにも目を配ります



村内で開催されたお茶飲み会に約50人が参加しました。記念撮影前のひとこま

村民の活力を引き出したい

村の人は、何でも自分たちでやってきました。それが、避難の暮らしの中では、どうしても受け身にならざるを得なかった。しかしこれからは違います。「自分たちでやってきた」ことを思い出し、震災前のプライドを取り戻していただきたい。いきいきした、笑顔あふれる暮らしができるようにしたい。

そのような気持ちで、「村民が主役」の企画を考えていきたいと思っています。また、お互い様で支え合ってきた村民同士のつながりも、ますます大事にしたいです。

一方で、村外からの応援や交流は、村の人の大きな励み。受け入れができる体制を整えていきたいです。

飯舘村社会福祉協議会
小林浩二事務局長

るさとへの思いや避難の苦労を語り合い、笑い話や昔話にも花を咲かせます。村社協では、今年、村内と避難先の両方で、「お茶のみ会」を開いていきます。

「最高だな」「来てみてよかった」。やさしい春の風が、楽しい笑い声を揺らしていました。

5月9日、交流センター「ふれ愛館」の前に、すがすがしい笑顔があふれていました。飯舘村社会福祉協議会（以下「村社協」）が主催する交流事業「お茶のみ会」が、村内で開催され、その記念撮影が行われていたのです。

村内で開く「お茶のみ会」には、帰村した人ばかりではなく、避難先からも自由に参加することが出来ます。「村の中では、来てみたよ。避難先では参加したことがなくて、初めて顔を出すんだ」と話す参加者もいました。「村の中だから、自分で運転して来れるのよ」と話すお年寄りもいました。

全村避難の中、福島市や南相馬市などで会場を借り、月2回のペースで開いてきた「お茶のみ会」は、離ればなれになった村民が集う場として定着し、多くの人が継続して参加してきました。毎回、園芸療法や音楽療法、健康講話など、工夫をこらしたプログラムも用意。参加者は、活動を共に楽しみながら、

一人ひとりに寄り添いたい

飯舘村社会福祉協議会の「つなぐ力」